

2021年11月期第2四半期
(2020年12月～2021年5月)
決算説明会資料

2021年7月16日

アステナホールディングス株式会社
(旧イワキ株式会社)
(東証1部：8095)

Diversify for Tomorrow.



アステナホールディングスへ商号変更

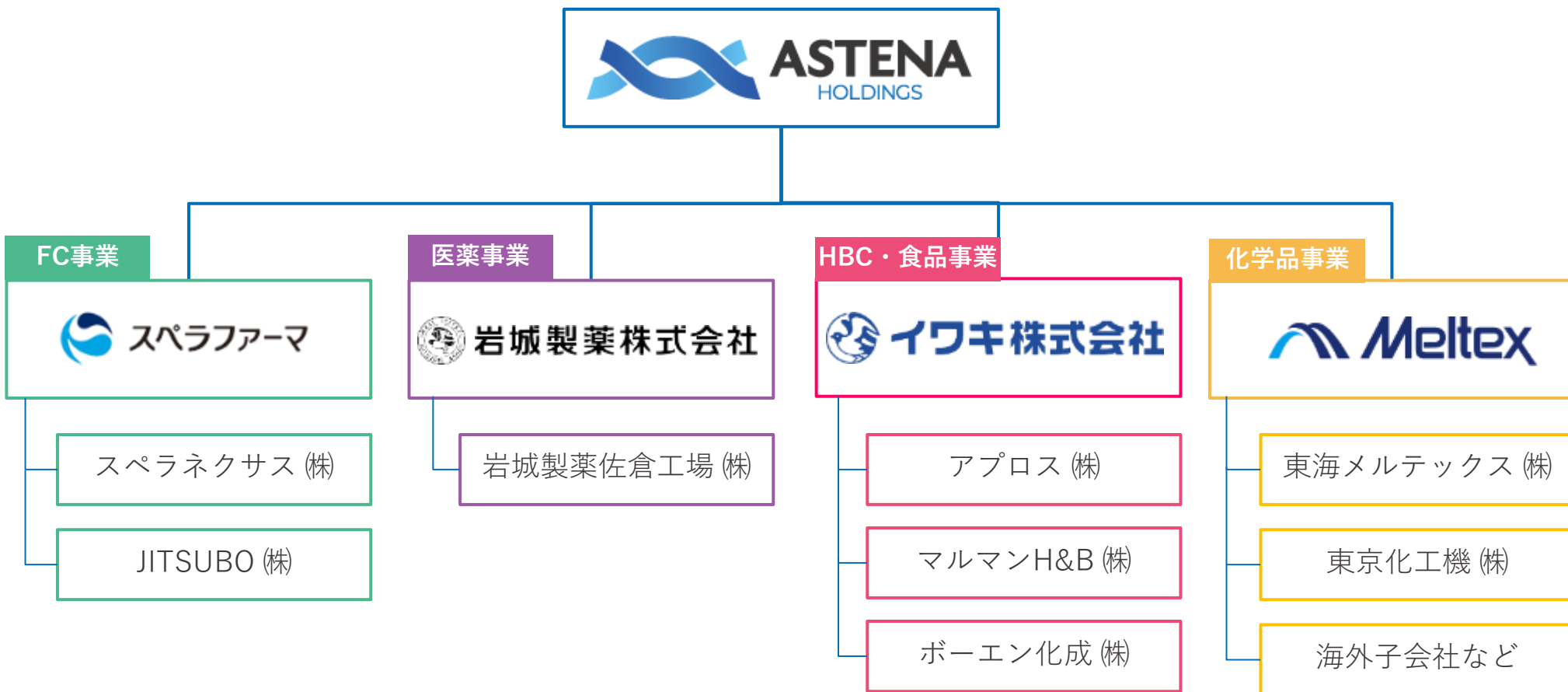
2021年6月1日に持株会社体制に移行し、「イワキ株式会社」から「アステナホールディングス株式会社」へ商号を変更。



アステナは「**明日**（未来）」と「**サステナブル**（持続可能）」の造語であり、新たな経営・ガバナンス形態の下で、アステナ・グループのステークホルダーである皆様と当社自身が持続的に健やかな未来を迎えられるようなビジネスを行なっていく願いを込めております。

アステナグループ体制について

アステナホールディングスを核としてファインケミカル事業、医薬事業、HBC・食品事業、化学品事業の4事業の各社で構成。



本社機能の一部を石川県珠洲市に移転

石川県珠洲市所有の文化施設“文藝館”を市から借り受け「珠洲本社」を設立。
同市に「珠洲ESGオフィス」も設立し、本社機能の一部を担う。



石川県珠洲市の概要

面積：247.2km²（山手線の内側の4倍）

人口：約13,000人

移転時期：2021年6月から段階的に

移転対象社員：ホールディングス全社員のうち希望者



珠洲本社



珠洲本社(内観)



珠洲ESGオフィス

I .決算概況

II .主要な取り組み

III .今年度の見通し

決算概況

売上高は前年同期増減率17.6%増、営業利益は同88.5%増と大幅な増収増益。

	<u>実績</u>	<u>前年同期増減額</u>	<u>前年同期増減率</u>
売上高	362.4億円	+54.1億円	+17.6%
営業利益	14.9億円	+7.0億円	+88.5%
経常利益	15.7億円	+7.6億円	+94.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.7億円	+4.3億円	+80.8%
E B I T D A	23.3億円	+9.7億円	+72.4%

セグメント別業績

全セグメントで増収、HBC・食品セグメントを除いて増益。

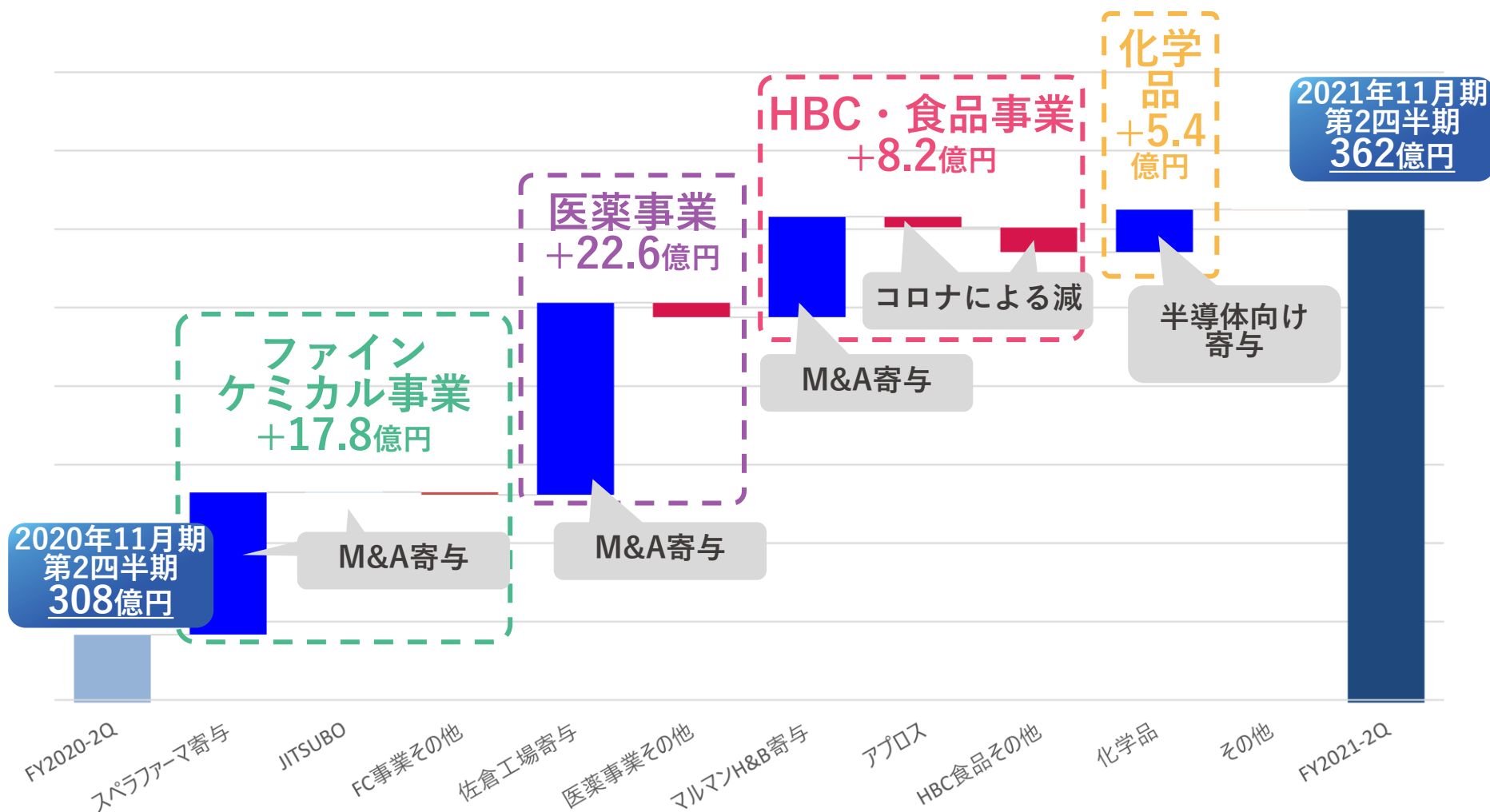
セグメント	売上高		営業利益	
	実績	前年同期増減額	実績	前年同期増減額
ファインケミカル事業	116億円	+17.8億円	7.2億円	+2.5億円
医薬事業	65億円	+22.6億円	9.2億円	+5.5億円
HBC・食品事業	140億円	+8.2億円	△3.4億円	△1.7億円
化学品事業	40億円	+5.4億円	2.0億円	+0.6億円

セグメント別売上構成 (2021年11月期第2四半期累計期間)

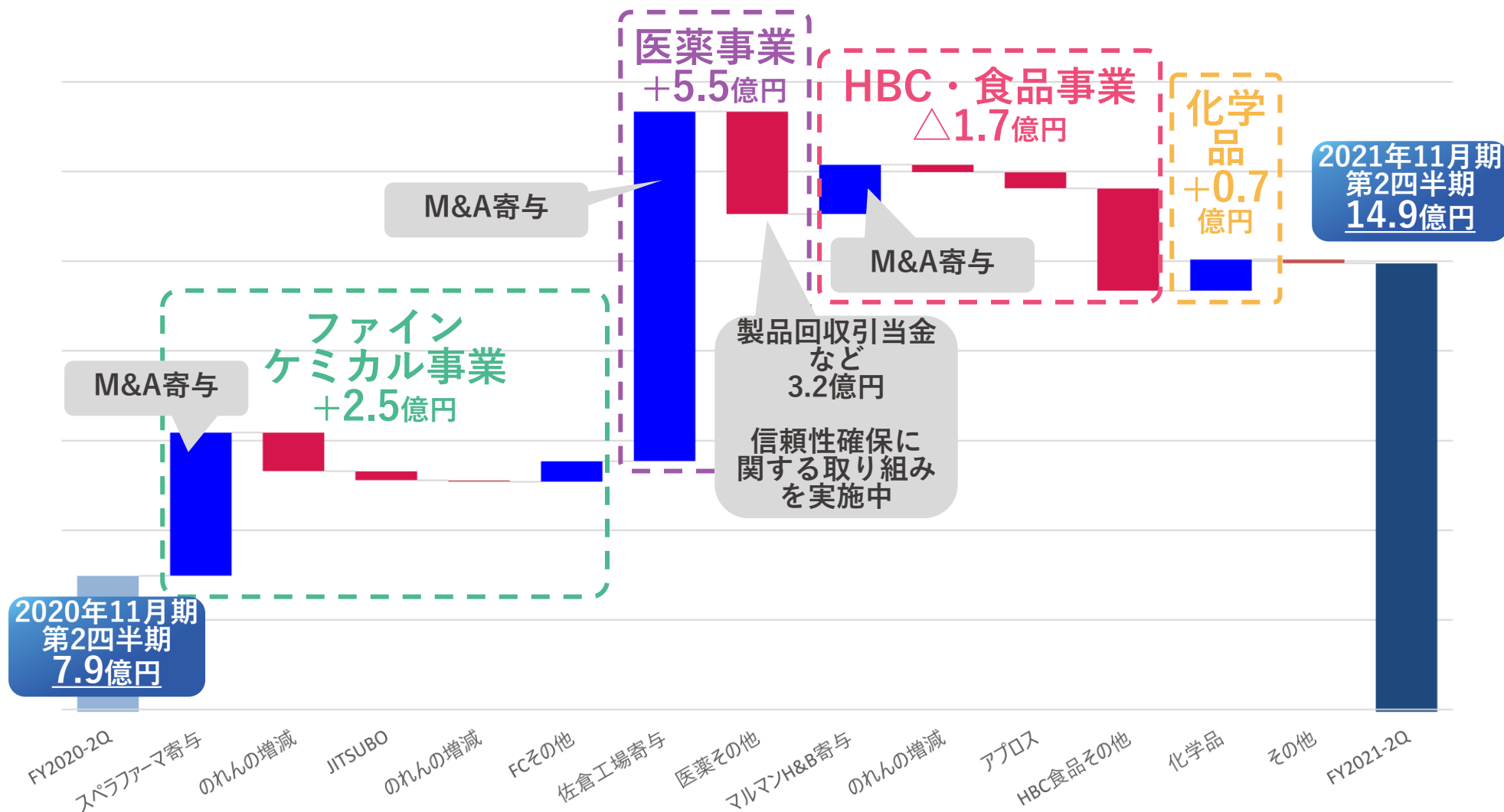
売上高構成比	研究開発	原材料製造	流通	製品製造	卸売	小売	計 (事業別)
ファインケミカル事業	CMC研究開発 36億円	医薬品原料BU 16億円	65億円				116億円 32%
医薬事業	JITSUBO追加			医薬品BU 63億円	医療機器BU 3億円		65億円 18%
HBC・食品事業			化粧品BU 22億円	10億円	ファルマネットBU 55億円		140億円 39%
化学品事業		表面処理薬品BU 29億円 表面処理設備BU 10億円	食品原料BU 51億円	スパシリティマテリアルBU 3億円	マルマンH&B追加		40億円 11%
計	10% 36億円	15% 55億円	39% 141億円	20% 73億円	16% 58億円		100% 363億円

※連結消去の記載を省略しているため合計があいまいです。

売上高（前年同期比較）



営業利益（前年同期比較）



業績予想値と上期実績の対比

本年1月発表の営業利益業績予想値に対して35.9%、4月の修正予想に対して4.6%の達成となり、通期業績予想に対しては57.5%の進捗となった。

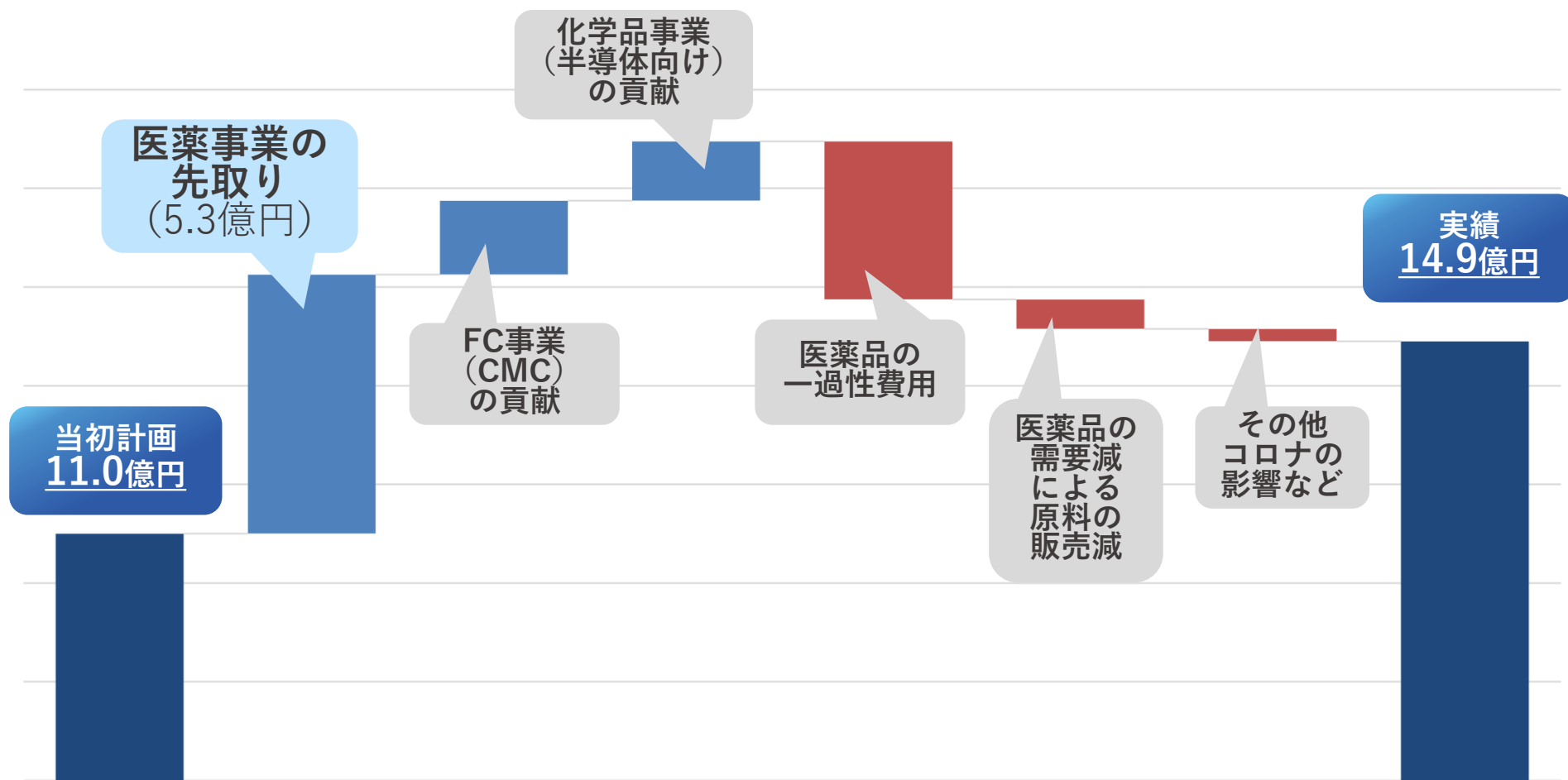
	実績	当初予想※1 (差額) (増減率)	修正予想※2 (差額) (増減率)	通期進捗率※1
売上高	362.4 億円	△0.5 億円 △0.1%	△0.5 億円 △0.1%	49.7 %
営業利益	14.9 億円	+3.9 億円 +35.9%	+0.6 億円 +4.6%	57.5 %
経常利益	15.7 億円	+4.4 億円 +39.3%	+0.8 億円 +5.7%	58.3 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.7 億円	+2.6 億円 +37.4%	+0.5 億円 +6.1%	48.8 %

※1 2021年1月13日 決算短信にて発表に対するもの

※2 2021年4月9日 業績予想修正のお知らせにて発表に対するもの（第2四半期のみの修正）

上期の業績分析（営業利益の当初計画比較）

上期の好業績は、ビジネス「先取り」の影響が大きい。



通期業績見込み据え置き理由

営業利益影響額
(半期ベース)

①「先取り」分の減速

医薬事業のうち特に佐倉工場の製造受託の先取りによるもの

△約5億円

②医薬品原料の不振

診療控えや新型コロナ予防による公衆衛生の改善による
医薬品の需要減に起因する医薬品原料の販売減

△約0.9億円

③アフターコロナを踏まえた販管費の積み戻し

出張旅費経費などの活動経費の増加想定

△ 約1.2億円

I .決算概況

II .主要な取り組み

III .今年度の見通し

3つの基本戦略

①プラットフォーム戦略 売上高：215億円、営業利益14億円※

- ✓ 売上は、エントリーしている産業の動向に連動する
- ✓ 実装する機能の多寡により、利益率が高まる

産業

②ニッチトップ戦略 売上高：81億円、営業利益4億円※

- ✓ 売上は、急激に増加したり減少したりすることなく安定する
- ✓ 保有する技術力及び製造能力が競争力を持ち続けている限り、高い利益率を維持できる

技術

③ソーシャルインパクト戦略 売上高：10億円、営業利益0.1億円※

- ✓ 市場ニーズは自ずと強くなり、長期に安定する事業になり得る
- ✓ 期待収益率は相対的に低いが、社会価値が非常に高い

社会

7つのビジネスモデル

① 策揃え

プラットフォーム戦略

-CMC(Chemistry, Manufacturing and Control)

医療用医薬品の研究開発を、国内トップレベルの水準で受託

-ヘルスケア調達プラットフォーム

医薬品・化粧品・機能性食品製造販売会社の全ニーズをカバー

-創薬インキュベーション

CMCの提供を通じて、新薬開発の成功確率を高める

-CDMO

医薬品（注射剤・外皮用剤・治験薬）を受託製造

② No.1

ニッチトップ戦略

-外皮用剤ジェネリック医薬品

国内塗り薬ジェネリック医薬品市場No. 1

-ハイエンド表面処理薬品

エレクトロニクスに特化した表面処理薬品。

③ 社会変革

ソーシャルインパクト戦略

-シニア・アクティベート

化粧品・機能性食品の提供を通して
「シニア総アクティブ化」を目指す

ファイン
ケミカル
事業

医薬事業

化学品事業

HBC・食品
事業

新規事業

プラットフォーム戦略

JITSUBO株式会社の子会社化

プラット
フォーマー

当社子会社のスペラファーマがJITSUBO株式会社の全株式を取得し、
2021年5月より連結子会社化しました。

名 称	JITSUBO株式会社
所 在 地	神奈川県横浜市
代 表 者	代表取締役社長 金井 和昭
事 業 内 容	ペプチド合成法Molecular Hiving™の開発 原薬の受託製造及び技術のライセンス
譲 受 価 額	10億円

JITSUBOのコア技術

プラット
フォーマー

Molecular Hiving™ One-Pot法

クリアーで分液が容易

晶析・単離が短時間で可能



反応

各工程の反応とIPCは
30分で完結

C末端からN末端までペプチド伸長反応の繰返し

洗浄と分液

各工程の総処理時間は
2時間以内に終了

伸長反応最終工程
晶析沈殿化

単離

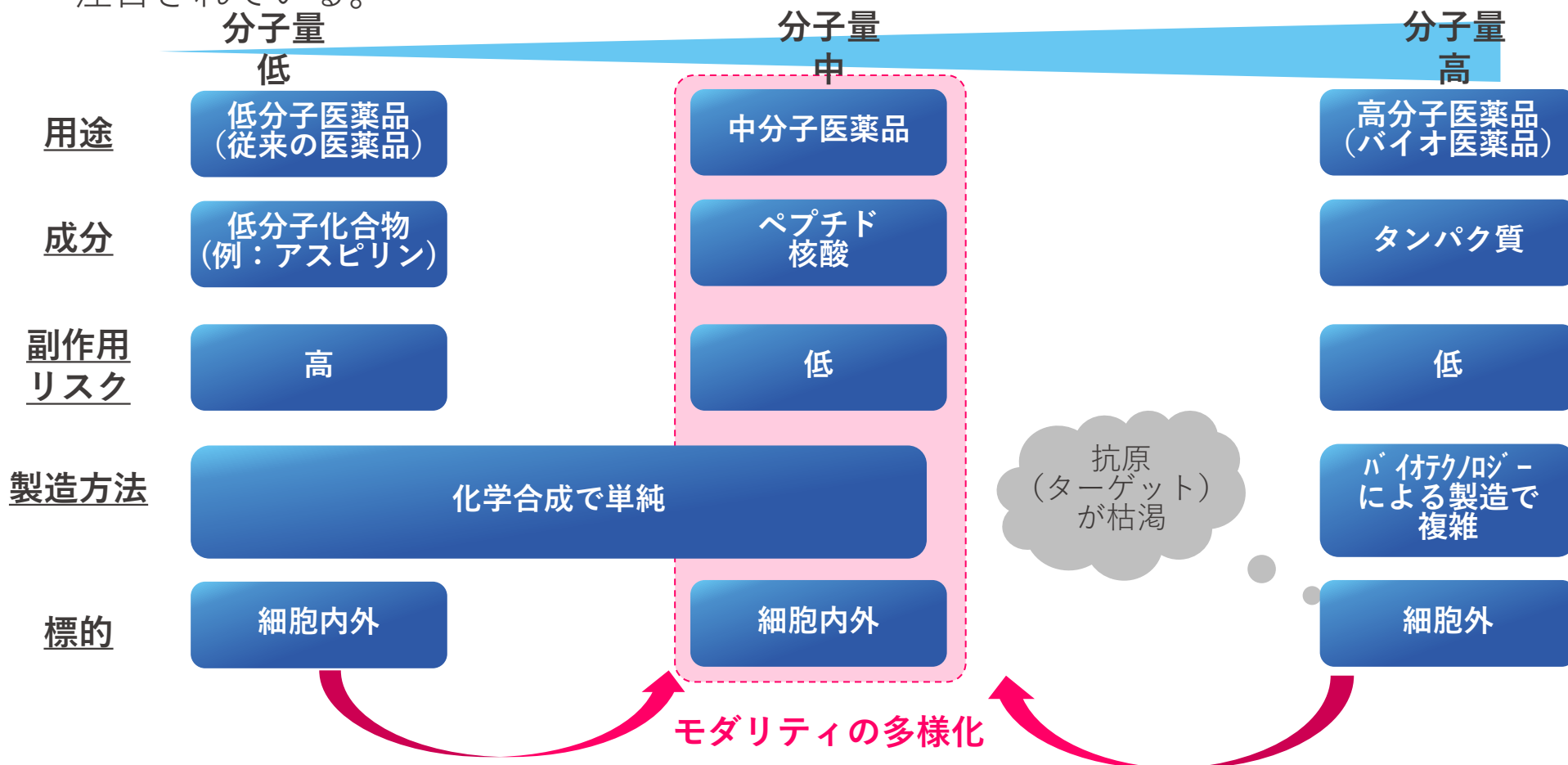
全脱保護

ペプチド粗体

中分子医薬品とは

プラット
フォーマー

医薬品開発のモダリティ多様化が進んでおり、ペプチドや核酸など中分子医薬品が注目されている。



中分子領域の強化

プラット
フォーマー

JITSUBOの子会社化により中分子領域への取り組みを強化します。

分子量
低

従来の
医薬品

分子量
中

ペプチド
核酸

分子量
高

バイオ
医薬品

既存領域

スペラファーマ



スペラネクサス

追加領域

JITSUBO



スペラ
ネクサス

NEW

- ・新しい核酸合成技術の開発のための準備段階
- ・共同研究パートナーも決定済

隣接領域で
あり
展開しやすい

CMC※1

CDMO※2

- ※1 CMC : Chemistry Manufacturing and Control
※2 CDMO:Contract Development and Manufacturing Organization

コロナ治療薬開発会社への治験薬供給

プラット
フォーマー

新型コロナウイルス治療薬の早期開発へ向け、バイオベンチャー2社と協働の取り組みを実施しています。

ファブレス
による
医薬品開発
に強み

オンコリス
バイオ
ファーマ
株式会社

治験薬原薬の
製造法開発
GMP製造受託

スペラ
ネクサス
株式会社

新型
コロナ
ウイルス
治療薬

インター
プロテイン
株式会社

治療薬探索研究
共同研究推進中

ペプチド系
の
創薬研究に
強み

高度な
合成技術

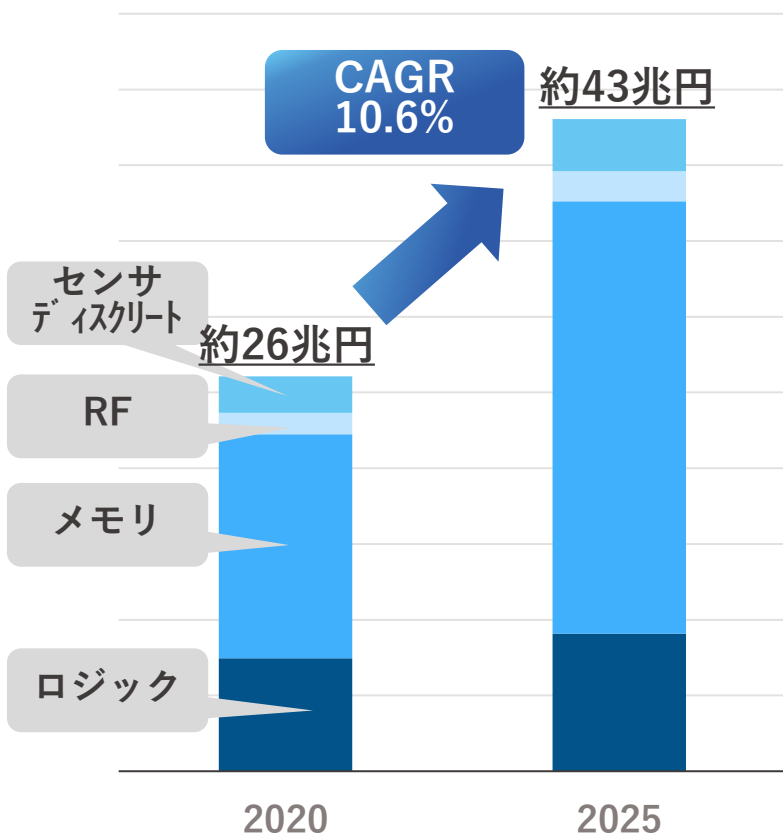
ニッチトップ戦略

半導体向け薬品

ニッチ
トップ

成長するマーケットへ向けて各種新製品を投入し、着実に売上増を目指していきます。

半導体デバイス市場規模 (グローバル)



分野	UBM (Under Barrier Metal)	シード層エッチング
用途 目的	半導体チップ接合用 アルミ電極上へのUBM形成	半導体チップ接合用 バンピングプロセス
	はんだバンプの断面模式図	

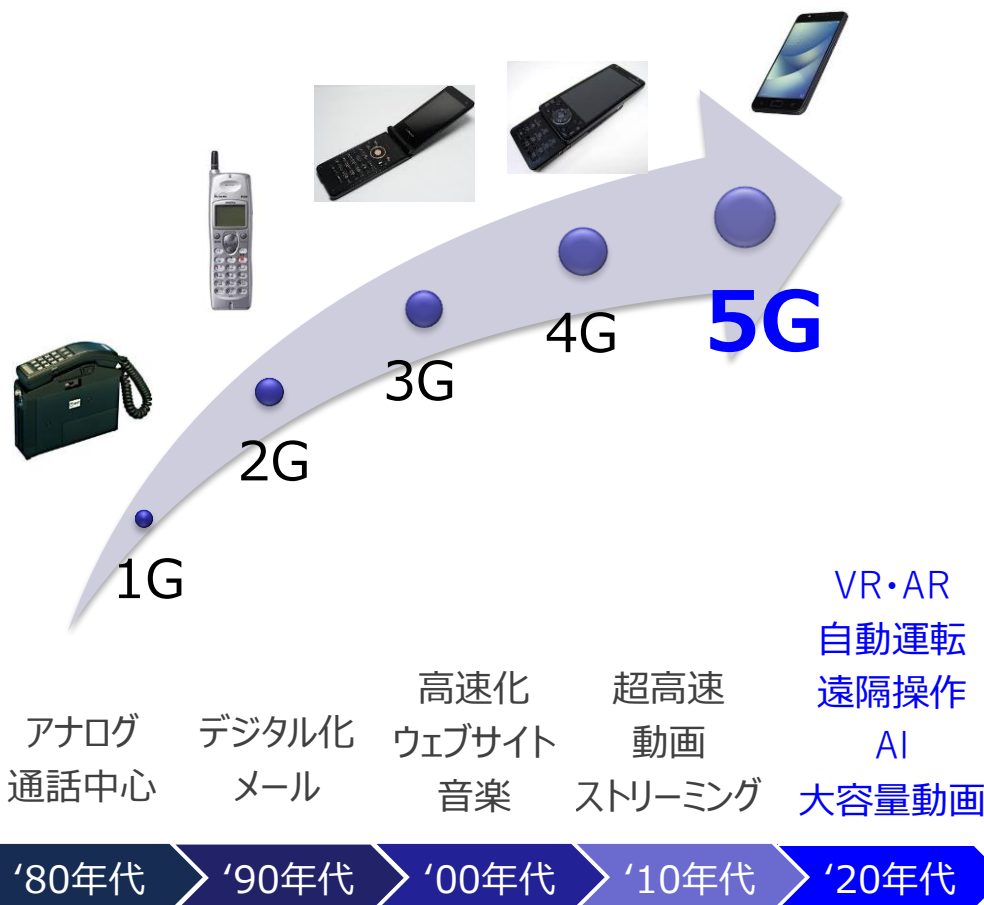
売上計画



プリント配線板向け薬品

ニッチ
トップ

5Gの普及が進み、さらに要求される「高信頼性」、「平滑化」、「高密着」に対応した新製品の投入によりさらなる成長を目指します。

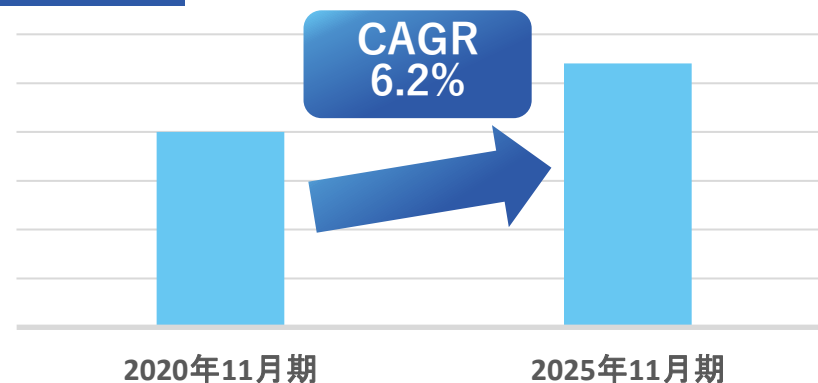
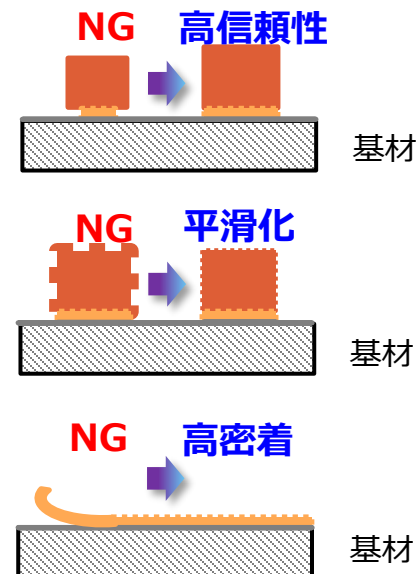


信頼性の高い
微細回路形成

回路表面の
平滑化

難めっき材料
への密着

売上計画



ジェネリック医薬品の信頼性確保に向けて

ニッチ
トップ

岩城製薬では製品の信頼性の一斉点検を行いその過程で、1品目の品質不良が発見された。



➡ 岩城製薬内に、GMP委員会の上位に「コンプライアンス委員会」を
設け製品の信頼性の強化に努める

(注) 当該回収については、含量が規格に適合しないロットにおいて、患部に塗布された有効成分量に僅かな差が生じる可能性があります。重篤な健康被害が発生するおそれは無いと考えております。
なお、これまでに本件に関連した重篤な健康被害の報告は受けておりません。

信頼性確保に向けた具体的な取り組み

ニッチ
トップ

信頼性確保へ向けて実効性のある具体的な取り組みを推進してまいります。



信頼性確保体制・強化策

1. コンプライアンス委員会設置
(各職場から委員選出により構成)
2. コンプライアンス推進室設置
(社長直轄組織・責任役員所属)
3. コンプライアンス規範の改定・教育
 - ◇コンプライアンス・プログラム
 - ◇行動憲章
 - ◇行動基準※全社員への周知教育と理解度確認のアンケート実施
4. 改正薬機法・法令遵守ガイドラインへの対応
(2021年8月1日施行)
5. 責任役員の指名
※薬事に関する業務に責任を有する役員（取締役）

ソーシャルインパクト戦略

ソーシャルインパクト戦略

ソーシャル
インパクト

珠洲本社を核に様々な取り組みを推進しています。

①本社機能の一部移転

- ・ 珠洲本社（石川県）でSDGs新規事業を複数立案中。
- ・ 珠洲では研究開発を行い、グローバルにスケールさせる。



< 珠洲本社 >

②北國銀行との連携協定

- ・ 株式会社北國銀行との連携協定を締結し、
 今後は地方創生のファンドの設立予定。



北國銀行



< アステナ地方創生ラボ >

③教育研修

- ・ 「アステナ地方創生ラボ」立ち上げ。
- ・ 「能登SDGsラボ」と協働で新事業創出プログラム開始。

④注目多数！！

- ・ 地元自治体はもちろん、地方創生担当大臣も注目。
- ・ マスメディア取材も多数。

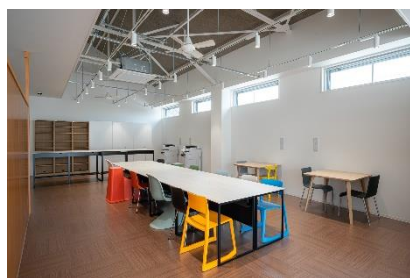


< 坂本地方創生担当大臣と >

検討中のSDGs新規事業

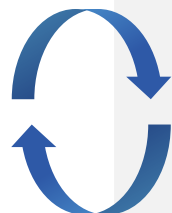
ソーシャル
インパクト

珠洲本社の立地する石川県珠洲市にて各種施策を検討、実施中です。



珠洲本社
新規事業推進室

2021年6月に
新設



能登SDGsラボ新事業
プロジェクト研究



陸上養殖



健康食品原料の6次化と
地域ブランド化



アステナ地方創生ラボ



奥能登SDGsファンド
(予定)



アマモのクレジット化



障害者雇用の推進



競馬馬の養老



過疎地型
オンライン診療



その他

新株予約権による資金調達完了

2020年12月より開始した行使価額修正条項付き新株予約権による資金調達が完了し、財務体質を改善。

開始時
(2020年11月末)

終了時

調達額

—

約**41**億円

株価

526円

+24.0% 

652円

※2021年7月7日終値

自己資本
比率

39.9%

+2.3pt 

42.2%

※2021年5月末

調達資金による設備投資の状況

調達が実現した資金による設備投資が順調に進んでおります。

① 岩城製薬佐倉工場(株)における注射剤製造ライン等

⇒2022年3月完了予定～秋口に本格稼働

約**36.9**億円



< 岩城製薬佐倉工場(株) >



< バイアル注射剤 >



< 高薬理活性対応
の注射設備 >

② スペアネクス(株)静岡工場における高薬理活性原薬製造機能拡張

⇒2022年9月完了予定～2023年春に本格稼働

約**5.4**億円

I .決算概況

II .主要な取り組み

III .今年度の見通し

2021年11月期連結業績の見通し

一過性の要因もあり、期初発表値からの変更はなし。

	<u>見通し</u>	<u>前期増減額</u>	<u>前期増減率</u>
売上高	730億円	+76.6億円	+11.7%
営業利益	26億円	+5.6億円	+27.8%
経常利益	27億円	+7.3億円	+37.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20億円	+0.1億円	+0.8%
E B I T D A	43億円	+9.3億円	+27.3%

株主還元

当期は前期の16.0円から2.0円増配の年間18.0円配当を予定します。

配当方針

純資産配当率
(DOE) **1.5%** 以上

連結配当性向 **30%** 目処

一株当たり
配当額(円)

20

15

10

5

0

5期連続増配
予定

2021年11月期
年間18.0円
(前期比+2.0円)

期末配当
予想

9.0円

中間配当
9.0円

年間配当
予想

18.0円

2017/11期

2018/11期

2019/11期

2020/11期

2021/11期

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています。

お問い合わせ窓口
アステナホールディングス株式会社
管理本部 経営管理部
Tel:03-3279-0564